

当企業団は、昭和56年に東総地域へ水道の用水供給を開始して以来、26年の歳月を数え、今日に至っております。この水源となる黒部川



(敬称略)
東総広域水道企業団
工務課長
安重 昌幸氏

地域・ユーザーの声

地域を守る瀬止堰
河口堰だより

発行所
独立行政法人水資源機構
東総川河口堰管理事務所
〒919-8604 福井県小浜市
TEL 0478-86-0477

貯水池の水質は、黒部川流域の生活排水、畜産排水及び農業排水など様々な排水の混入や海水の遡上の影響を受けること、また、黒部川の貯水池化に伴い空素及びリンの増加に起因する富栄養化現象により複雑多様化しております。このため、異臭味の発生や発ガン性物質であるトリハロメタン濃度の上昇等の通常の浄水処理では対応が難しい水質問題に苦慮してまいりました。

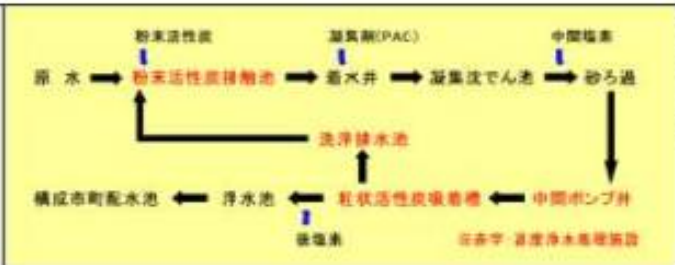
一方では、平成4年の水質基準改正ではトリハロメタン等が水質基準項目に追加され、水質基準28項目から46項目と大幅に増加しました。このようなことから、味や臭いの対策

だけでなく健康面での安全対策を緊急に講じる必要があります。これらの対策を同時に実現する方策として、昭和59年から平成7年まで各種の実験を実施し、平成11年度まで検討を重ね、「粉末活性炭と粒状活性炭（吸着活性炭）」の組み合わせで高度浄水処理する方式を選定しました。

現在、平成18年度稼働を目前に平成16年度に着手した建設工事は、主要施設がほぼ完成して試験運転調整の最終段階に入っております。

この高度浄水処理プロセスは、従来の「沈殿ろ過」の水処理システムに、高度浄水施設として、前段で「粉末活性炭処理」を行い異臭味及びトリハロメタンの前駆物質を除去し、さらに後段では、塩素との反応により生成したトリハロメタンを吸着除去する「粒状活性炭処理」を追加し、塩

高度浄水処理の流れ
32年度）において日量4万9千4百立方メートル



素消毒剤の注入か所を最終工程のみとするものであります。



建設中の
高度浄水処理施設

今後は、年々多様化する水質問題にも対処するため、更なる施設の整備拡充を図っていくとともに、「安全かつ良質な水道水の確保」の観点から、水道水源であり、黒部川貯水池のより良い水環境改善が重要であり、皆様のご協力をお願いいたします。

イベント案内

勉強会の開催

利根川河口堰管理所で、利根川下流域の文化・歴史・自然環境について、地元の学識経験者を講師とする勉強会を、平成17年12月7日と平成18年1月12日の2回に分けて利根川河口堰管理所説明ホールにて開催しました。

勉強会には、県、水道事業業者、近隣の機構事務所職員、河口堰管理所職員を含め約40名程が参加し、第1回目の講師として、当管理所が発行している「河口堰だより」の「利根川下流域川紀行」に寄稿していただいたいる、林晴夫氏を招き、「利根川下流域の文化・歴史」というタイトルで講演いただきました。第2回目は大



第1回勉強会の様子
(林講師による講演)



第2回勉強会の様子
(鎌谷講師による講演)

利根川の貴婦人

シラウオは、一生のほとんどを汽水域（海水と淡水が混じりあるところ）で過ごす魚です。

磯り魚いで有名なシラウオとよく間違えられますが、シラウオはハゼの仲間であり、サケの仲間であるシラウオとは全く別の魚です。その証拠に、



シラウオには、サケの仲間がもつ「あぶらびれ」がついています。

シラウオは、つかまえると、すぐに死んでしまうため、白色に変化してしましますが、生きているときは透明で、水の中を泳ぐ姿は大変美しく、若い女性のしなやかな指にも例えられるそうです。

利根川河口堰で実施している魚類調査で、シラウオは春夏秋冬問わず、ほぼ1年の全期間確認されています。

この広報紙に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、勉強会等も受け付けています。広報紙担当、ムラサキグループ課長(かまがた)、までご連絡ください。

〒209-0811
千葉県東総郡東庄町郵便2276番地
水資源機構 利根川下流域管理事務所
利根川河口堰管理事務所
TEL 0478-86-0477
FAX 0478-86-2457
E-mail : tonekako@topaz.ocn.ne.jp

編集後記

河口堰管理所で、お花見が出来ると、みなさんご存じでしたが、

しかも、3月の下旬からはライトアップもしているのです。夜桜まで楽しめるんですよ。是非、河口堰の昼と夜の桜を楽しむにきて下さい。

それから、河口堰のホームページ上で、河口堰の桜の状況を報告していきますので、ご期待して下さい。

(編集担当者)

利根川河口堰は、昭和46年4月から管理開始後、すでに34年が経過し、施設の老朽化が進行しています。当管理所では、重大事故が発生しないよう予防保全の観点から、施設整備を鋭意進めてきています。

この度は、昨年度に引き続き利根川大橋の「全面通行止め」を実施しました。各市町村の広報誌掲載や工事案内看板設置を行って参りました。皆様におかれましては、河口堰施設整備へのご理解とご協力を頂き、「全面通行止め」は大きなトラブルもなく無事終えることができ、感謝する次第です。

また、整備工事は今年度一杯続きますが、今後とも河口堰施設の維持管理および工事等にご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。

短信・河口堰

利根川大橋全面通行止めに協力頂きありがとうございます。どうもありがとうございました。



基兵衛公園と松虫寺・松虫姫公園の位置

利根川下流沿川紀行

成田市と印旛沼を隔てた印旛村吉高との間は昭和36年迄、渡し船が利用されていた。その名の由来は義民佐倉宗吾が幕府へ直訴するために江戸へ向かう途中、甚兵衛が禁を犯し船を出し沼を渡した。捕らわれの身での生活を余すよりはと甚兵衛は冬の印旛沼に身を投じた。その後村人たちにより甚兵衛の供養塔が建立され現在はそこは公園となっている。

甚兵衛渡し跡



夜間全面道交止めによる作業

施設整備へのご理解とご協力を頂き、「全面通行止め」は大きなトラブルもなく無事終えることができ、感謝する次第です。

奈良時代のこと、聖武天皇の第三皇女「松虫姫」という美しい姫君が年頃になったとき、そのころは不治の病と言われた「らい病」にかかってしまい、ある夜夢枕に下総萩原の薬師に祈願するよう、お供養塔跡にある



供養塔跡にある 甚兵衛公園



甚兵衛供養堂



ドラムギアの据付作業中



ドラムギアのつり上げ作業中

（利根川愛好会会長 林 敏夫）
境内にある「御杖の銀杏」



告げがあり、早々萩原郷に参り薬師如来の祠で毎日祈り続けた。それから数年後に姫の病は全快し、天皇は大変お喜びになり、僧「行基」に七佛薬師を刻ませ、都の大工をつかわし、寺を建立させ姫の名にちなんで「松虫寺」と名付け、地名も松虫と称されるようになったと言われている。境内には姫が道中に使用した銀杏の杖がそのまま埋付いたと言われる「御杖の銀杏」と呼ばれている。また近くには、姫が都から来るとき、乗ってきた牛が戻るころ煮いてしまわれなくなり、この地に残して行くことになり、牛が姫との別れを悲しんで自ら、もぐってしまったと伝えられる「牛溜りの池」があります。

利根川河口堰管理所では、利根川下流域水源対策協議会（5水道事業体の協議会）との情報交換会を年2回開催し、「安全で良質な水道水の安定供給」に向けての話し合いを行っています。

水道事業者との情報交換会



松虫姫公園内にある牛溜りの池



松虫姫公園内にある牛溜りの池



松虫寺



今後もこのような話し合いを、行っていけるよう努めていきます。

利水者との情報交換会（7回目）の様子